

# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

この調査は、市民が市政についてどのように考え、また何を望んでいるのかを統計的に把握するとともに、施策の評価や市政への関心・意識の程度を調査し、市政運営上の基礎資料とすることを目的とする。

## 2. 調査の項目

調査項目は以下のとおりである。

調査事項	調査項目
回答者属性	性、年齢、職業、家族構成、居住年数、居住地域、居住地区
宇都宮市に対する感じ方	宇都宮市の好き・嫌い、好きな理由、嫌いな理由
広報媒体の活用状況	「広報うつのみや」の入手方法、「広報うつのみや」の閲読状況、「広報うつのみや」で読んでいる記事、「広報うつのみや」を入手していない理由、「広報うつのみや」で充実してほしい情報、「広報うつのみや」の発行日について、市政情報の各広報媒体の視聴状況、市政情報を得るために利用したい手段
男女共同参画	社会全体で男女の地位は平等になっているか、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の認知度、生活の中で何を優先するか、配偶者等からの暴力を受けた経験
COPD（慢性閉塞性肺疾患）・CKD（慢性腎臓病）	COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度、CKD（慢性腎臓病）の認知度
ロコモティブシンドローム（運動器症候群）	ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度
自転車の利用促進	自転車の利用目的、宇都宮市は自転車を使用しやすい街か、宇都宮市の自転車施策認知度
もったいない運動	「もったいない運動」の認知度、実践している（実践したい）「もったいない運動」は何か
家庭の日	「家庭の日」の認知度、「家庭の日」に実践していること
中央卸売市場の一般開放	中央卸売市場の一般開放の認知度、市場に来場して感じたこと、今後必要となるもの、来場されなかった理由、一般開放に望むもの
宇都宮市産の農畜産物	「うつのみや産」の農畜産物の購入状況、「農業王国うつのみや」を目指した取組の推進を大切にしたいと思うか
がん検診の受診状況	3年以内のがん検診受診状況、受診していない理由
「オープンデータ」の公開	「オープンデータ」の認知度、「オープンデータ」推進時に期待するもの、望ましいオープンデータ化情報

健康づくり	毎日健康で充実した生活をしているか
生物多様性	生物多様性の認知度
生涯学習	取り組む必要性が高いと考える「社会的課題」、早急に実施すべき具体的な「学習テーマ」
市政情報コールセンターと「よくある質問」	コールセンターの認知度，コールセンターの利用状況，ホームページの「よくある質問」検索システムの認知度，ホームページの「よくある質問」の利用状況
特別支援教育	「発達障害」の認知度，「特別支援教育」の認知度
住宅用火災警報器	「住宅用火災警報器」設置義務の認知度，「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況，「住宅用火災警報器等」を設置していない理由，「住宅用火災警報器等」の点検等実施状況

### 3. 調査の設計

- 調査地域 宇都宮市全域
- 調査対象者 満 20 歳以上 80 歳未満の日本国籍を有する市民 4,800 人
- 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- 調査方法 郵送法
- 調査期間 平成 26 年 7 月 10 日～7 月 31 日

### 4. 回収結果

標本数	有効回答数	有効回答率
4,800	2,429	50.6%

<性別・年齢別の回収状況>

性別 年齢別	男 性			女 性			無回答	合 計		
	標本数	回収数	回収率	標本数	回収数	回収率		標本数	回収数	回収率
20 歳代	323	89	27.6%	260	94	36.2%	-	583	183	31.4%
30 歳代	480	146	30.4%	426	224	52.6%	-	906	370	40.8%
40 歳代	536	182	34.0%	426	232	54.5%	-	962	414	43.0%
50 歳代	380	173	45.5%	361	227	62.9%	-	741	400	54.0%
60 歳代	447	265	59.3%	493	349	70.8%	-	940	614	65.3%
70 歳以上	291	187	64.3%	377	253	67.1%	-	668	440	65.9%
無回答	-	-	-	-	-	-	8	-	8	-
計	2,457	1,042	42.4%	2,343	1,379	58.9%	8	4,800	2,429	50.6%

## 5. 標本誤差

アンケート調査を行う場合、全母集団を対象とすることが望ましいが、実際には適切な数の標本を抽出して調査を行うことになる。そのため、アンケートの回答結果が、どの程度の精度を持った回答結果であるのかを検討することが必要となる。その精度は以下の式で表わされる標本誤差を算出することで把握できる。

通常のアンケートでは、信頼度として95%がとられるケースが多い。信頼度95%とは、100回に5回がその標本誤差の範囲におさまらないという意味である。

次の表は、本調査における信頼度95%の場合の標本早見表である。

回答の比率 (P) 回答数 (n)	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
2,429	±1.19%	±1.59%	±1.82%	±1.94%	±1.98%
2,000	±1.31%	±1.75%	±2.00%	±2.14%	±2.19%
1,800	±1.38%	±1.84%	±2.11%	±2.26%	±2.30%
1,500	±1.52%	±2.02%	±2.31%	±2.47%	±2.53%
1,000	±1.86%	±2.48%	±2.84%	±3.03%	±3.10%

< 標本誤差の算出方法 >

$$b = 1.96 \sqrt{\frac{(N-n)}{(N-1)} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

b : 標本誤差

N : 母集団数 (宇都宮市の20歳以上80歳未満人口)

n : 比率算出の基礎 (回答者数)

p : 回答の比率 (%)

1.96 : 信頼度95%の場合 (信頼度99%の場合は2.58を使用)

< 表の見方 >

この表の見方としては、例えば、回答者数が2,429で宇都宮市が「好き」との答えが44.4%であった場合、「その回答比率の誤差の範囲は最高でも44.4%±1.94%以内(42.46%~46.34%)である」とみることができる。

## 6. 調査報告書の見方

- 集計値は、小数点第2位を四捨五入とする。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- 回答比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- 基数となるべき実数はnとして表示した。その比率は、件数を100.0%として算出した。